

事務事業名		木次こども園建設事業		所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
総合計画体系	政策名	(Ⅲ) 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》		所属G	総務政策グループ	課長名	狩野明芳
	施策名	(26) 子育て支援の充実		担当者名	南波真二	電話番号	0854-40-1044
	目的	対 子どもの保護者と産み育てたい 意図 安心して子育てができる。				(内線)	2252
	対象	夫婦					
	基本事業名	(076) 地域における子育て支援の充実		予算科目	会計 款 大事業 大事業名	木次こども園建設事業	
	目的	対 保護者・地域 意図 地域で子育てを支える環境がある。			0 1 1 5 0 5	中事業 中事業名	
					1 0 1 5 0 1	木次こども園建設事業	

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度～)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (28 年度～ 33 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
木次こども園の整備を行う。 ・H28・・・基本計画、補償調査 ・H29・・・補償調査 ・H30・・・用地・補償契約、基本設計 ・H31・・・用地・補償契約、実施設計、造成 ・H32・・・建設工事、備品 ・H33・・・旧施設解体等

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動) 補償調査1式(2権利者4棟)	30年度計画(30年度に計画する主な活動) 用地・補償契約(5権利者) 基本設計 地質調査			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	ア 決算額(H30年度は予算額)	千円		5,935	4,890	154,052
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	木次こども園児	ア 在園児とその保護者(園児数)	人	122	114	126	120
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
園児が快適で良質な環境で保育・教育を受ける。	ア 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(行政サービスの)	%	65.9	71.2	79.2	67.0	
	イ						
	ウ						

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)	
補償調査 ・4,890千円	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円				132,000
		その他	千円				22,052
		一般財源	千円		5,935	4,890	
	事業費計(A)	千円		5,935	4,890	154,052	
	人件費	正規職員従事人数	人		1	2	
延べ業務時間		時間		120	533		
人件費計(B)		千円		476	2,173		
	トータルコスト(A)+(B)	千円		6,411	7,063		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
市内の全幼保施設に先駆けて、平成25年4月に認定こども園化へ移行した。	認定こども園化移行当初から施設が分断状態にあり、一体化施設の建設・整備に対する要望を受け、その改善に向けた検討を行ってきた。	早期の一体化施設の建設・整備

事務事業名	木次こども園建設事業	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
-------	------------	-----	--------	-----	--------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	施設整備に向け、事業予定地・施設構造・内容等適宜比較検討を行いながら事業を進めており、これ以上の成果向上の余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	中止となった場合、一体化施設の建設・整備に対する要望には応えられない。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	公立園の施設整備であり、他に手段がない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		施設整備にあわせて、定員拡大を図る予定であり、これ以上削減の余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由		削減の余地はない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由		公立園の施設整備であり、公平・公正である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
<p>・これまで施設整備について要望を受けてきており、また、近年の待機児童の発生もあり、定員の拡大を含めた施設整備は必要である。</p>				

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
<p>現状のやり方を継承しつつ、設計段階以降、できるだけコスト低減を含めて検討を行いながら、施設整備を図る。</p>		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			